

## もぎたてりんごを満喫 りんご一枝オーナー収穫体験ツアー

つがるブランド推進事業の一環として、つがるにしきた農協が主催する「りんご一枝オーナー収穫体験ツアー」が10月23日から2泊3日の日程で行われ、東京・千葉・愛知から抽選で選ばれた一枝オーナー21人がつがる市を訪れ、りんごの収穫体験を楽しみました。

一行は24日、柏地区のりんご畑へ到着。園主の荒谷隆志さんが「春先の天候不良や夏の猛暑の影響を受けたが最近の寒暖の差で味が良くなった。ゆっくり味わってください」と歓迎のあいさつを述べると、参加者は食べ頃に熟した「シナノスイート」と「星の金貨」をよりすぐり、もぎたての味を満喫していました。千葉県から参加した佐藤友美子さんは「甘くておいしい。りんごの木を初めて見て感動しました」と笑顔を見せていました。



りんごの収穫を楽しむツアー参加者

## 台湾向けりんごの初選果 11月の市長トップセールスに向け



台湾輸出用りんごを確認する福島市長ら

10月9日、つがるにしきた農協柏支店のりんご選果場で台湾輸出りんごの初選果・目ぞろい会が行われました。市産りんごの台湾輸出は平成22年から始まり、昨年は2500箱（1箱10\*）、今年は5000箱を予定と好評を得て年々増加しています。初選果・目ぞろい会は、11月24日、25日、台湾で行われる福島市長のトップセールスに合わせて実施されました。

この日は、福島市長、つがるにしきた農協の山田衛組合長、輸出業者の青森アップルジュウスの葛西務社長ら約15人が市産りんご「トキ」の形、色、玉伸びなどを確認しました。同農協直販課の鶴賀徳久課長は「今年のトキはやや大きめで収量も平年並み。食味も良好」と説明。福島市長は「生産者が丹精込めて作った市産りんごのおいしさや安全性を台湾の消費者の方々に実感してもらい、販路拡大につなげていきたい」と話していました。

## 筆に込めた防火の願い 防災習字作品授賞式

平成24年度防災作品授賞式が10月10日、市消防本部で行われました。同本部では秋の火災予防運動（10月15日～21日）の一環として、防災に関する習字作品を募集。市内小学校から281点が寄せられ、金賞から銅賞まで優秀作品30点が選ばれました。

授賞式では入賞者に表彰状が手渡され、小野消防長が「防災のまちづくりへの参加とともに、皆さんの中から将来の消防士が誕生することにも期待しています」とあいさつしました。



表彰状を手に小野消防長と記念撮影



## 無理のない運動で健康づくりを 運動おためし教室



高橋さん(右)の指導のもとミニボールを使って運動する参加者

市では、健康増進のための運動継続のきっかけづくりとして9月から12月まで全8回の日程で「運動おためし教室」を開催しています。

10月3日、森田保健福祉センターでは、理学療法士の高橋尚裕さんを講師に「ミニボールエクササイズで腰痛・膝痛・肩こり予防」のテーマで行われました。高橋さんは「腰痛・膝痛・肩こりは運動不足、筋力不足、肥満傾向などが原因。体重を1%減らすだけで動いた時に片膝にかかる負担は3～5%減る」と講話。その後、ミニボールを使ったストレッチを紹介し、参加者は、ボールを膝で挟んで筋肉を伸ばしたり、ボールの上に座って骨盤の運動をしながら心地よい汗を流しました。

参加者は「なかなか運動を続けられなかったが、これなら家でも気軽にできそう」と感想を話していました。

## 災害に備え炊き出し訓練 つがる市赤十字奉仕団合同研修会

つがる市赤十字奉仕団とつがる市民生委員児童委員ら約140人が9月19日、木造中央公民館で災害時に備えた炊き出し訓練を行いました。

はじめに、同団の三橋孝委員長が「災害時の支援活動には各団体の連携体制が必要。一人一人が役割を自覚し協力しながら訓練を進めていきましょう」とあいさつ。訓練には菰槌保育園としばた保育園の園児たちも参加し、日本赤十字社青森県支部の竹内洋子さんを講師に、ハイゼックス（熱に強い高密度ポリエチレン）の袋を使って米を炊き、災害時の炊き出し方法を学びました。参加者は、といだ米と水を袋に入れて輪ゴムでしばり、釜で約30分ゆでて完成させ、カレーライスにして試食しました。午後にはビデオ上映と講話も行われ、災害支援ボランティアについての理解を深めていました。



非常災害食用の米の炊き方を学ぶ参加者

## 交通ルール守ります 秋の交通安全運動



交通安全の体操を披露するもりた保育園子ども交通指導隊

秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）に伴い、9月21日、つがる市交通安全のつどいがイオンモールつがる柏で行われました。

つどいには、市民や関係者ら約170人が参加し、つがる地区交通安全協会の桜庭修会長が「日没が早まるこれからの時期は交通事故や高齢者の交通事故が多発する傾向があり、関係機関が連携し交通安全対策に取り組みます」と福島市長にメッセージを伝達しました。

また、アトラクションとして、よさこい知求群会が演舞を披露し、柴田子ども交通指導隊と館岡子ども交通指導隊、もりた保育園子ども交通指導隊が「皆さん交通ルールを守りましょう」と元気よく来場者に呼び掛けました。



## 昔ながらの脱穀作業で収穫の喜び

瑞穂小学校（一戸瑞校長）の5年生54人が10月15日、アイガモ農法で育てた学校田の稲の脱穀作業を体験し、収穫の喜びを味わいました。児童らは9月24日に稲を刈り、天日干しにして乾燥させてきました。

脱穀作業は、こしょつがる農協「おいしいごはんを作る会」の高橋金義さんらの指導のもと、昔ながらの足踏み式脱穀機を使用。児童は2人1組になり、1人がドラムを回転させ、もう1人が稲を刃に当て、粃を飛ばしました。木村蓮君は「昔は全部手作業で大変だと思った。今まで何気なくご飯を食べていたが、もっと味わって食べるようにしたいです」と感想を話していました。



高橋さん（右）の指導を受けながら脱穀作業を体験する児童たち



人形を担架に乗せて競争する園児たち

## 広がるこども赤十字の輪

第18回西北五地区こども赤十字交流会が10月3日、つがる地球村で開催され、こども赤十字に加盟する西北五地区の幼稚園・保育園の園児ら約280人がゲームや踊りなどを通して交流を深めました。

交流会には市内から銀杏ヶ丘保育園、菰槌保育園、いなほ保育園、しげた保育園が参加し、開会式で西北五地区青少年赤十字指導者協議会の三上照美会長が「他の保育園や幼稚園のお友達とも仲良く力を合わせてがんばってください」とあいさつ。園児らは、綱引きや玉入れ、人形を担架に乗せて2人1組で走る赤十字リレー、フォークダンスなどを楽しみながら交流の輪を広げていました。

## 木造チャーチル会50周年絵画展

つがる市の絵画愛好団体・木造チャーチル会（鎌田繁会長）の創立50周年を記念して、9月18日から28日まで、松の館で記念絵画展が開催されました。同会は、昭和38年9月に竹内俊吉知事が設立を提案したことをきっかけに誕生し、現在は会員7人が月1回集まり絵を描いています。

記念絵画展には風景画、静物画、抽象画の17点のほか、顧問・指導者の川嶋悌吉さんと二代目会長の故川嶋慶三さんの作品も展示されました。

繊細なタッチで描かれた花や津軽の身近な風景など、色彩豊かな作品が来場者を魅了しました。



作品を鑑賞する来場者



公園のごみを拾い集める児童たち

## 稲垣小学校児童が清掃ボランティア

9月25日、稲垣小学校（近藤秀生校長）5年生15人が岩木川河川公園のごみ拾いを行いました。この活動は、ボランティアによる清掃活動を通して地域のために奉仕する気持ちを育むことを目的に、青森河川国道事務所五所川原出張所の協力のもと実施されました。

児童たちは、公園内のごみを分別しながら拾い集め、5袋分のごみが集められました。清掃後、工藤菜々美さんは「空き缶やお菓子のごみなどがいっぱい捨てられていてびっくりした」、乳井紘夢君は「公園がきれいになったので、気持ちもすっきりした」と話していました。





## つがる相撲クラブが全国大会で準優勝

全国少年相撲選手権大会（10月7日、両国国技館）でつがる相撲クラブA（越後谷清彦監督）が準優勝を飾り、10月15日、福島市長へ報告に訪れました。

大会は全国の少年相撲クラブの日本一を決めるもので、全国から80チームが出場。同チームは、順当に勝ち進みましたが、決勝戦で葛飾白鳥相撲教室（東京）に3対2で敗れ、惜しくも準優勝となりました。

越後谷知樹君（木造中2年）は「今回は優勝できなかったけど、また次を目指して頑張る」と話し、決勝戦で小学3年生の関東チャンピオンを破った長谷川恵司君（向陽小2年）も「次は全国で優勝したい」と意気込みを語りました。



表彰状を手にするつがる相撲クラブAチーム（両国国技館）



（左から）花田君・川嶋君組と菊地君・中曽根君組

## 少林寺拳法東北大会で最優秀賞受賞

少林寺拳法東北大会（9月16日、山形県天童市）で津軽中部道院拳友会（白川幸夫監督）の選手4人が、組演武の最優秀賞に輝き、福島市長に報告しました。

受賞したのは中学生級の部の花田大珠君（木造中2年）・川嶋孝典君（同1年）組、小学生4級の部の菊地健君（瑞穂小5年）・中曽根孝太郎君（向陽小4年）組。組演武は、2人1組で技を交互に掛け合い、技の正確さや表現力を競うものです。花田君は「距離感がつかめなかったときもあったが1位になれて嬉しい」、菊地君は「今後は知らない技を身に付けたい」と抱負を話していました。

## 稲垣ジュニアがバレー東北大会で優勝

9月29日、30日、秋田市で開催された第27回東北小学生バレーボール選手権大会で稲垣ジュニアが17年ぶりの優勝を果たしました。大会には東北6県から各県上位2位の男女24チームが出場。稲垣ジュニアは予選を2戦2勝で1位通過し、決勝トーナメントでは山形六小（山形）、中央台（福島）を相手に順当に勝ち進み、決勝戦では木崎野小（青森）をセットカウント2対0で破り、見事頂点に立ちました。

主将の常川樹さんは「念願の東北優勝ができ最高の思い出となりました」と話し、成田信監督は「8月の全国大会ベスト8の経験が自信となり、持ち味の粘り強い守りが発揮できた」と大会を振り返りました。



優勝を果たした稲垣ジュニアの選手たち



道路脇の土砂を取り除くシルバー人材センターの会員

## シルバー人材センターが清掃奉仕

シルバー人材センター事業普及啓発促進月間の一環として、市シルバー人材センター（山内清美理事長）の会員ら約60人が10月19日、市役所周辺の幹線道路の清掃奉仕活動を行ないました。

清掃活動では、会員らがスコップや鎌を使い、道路脇や歩道の側溝にたまった土砂や枯葉などの除去や歩道の除草を行い、環境美化に努めました。

市役所周辺の道路はきれいになり、片山事務局長は「少しでも地域に貢献できればうれしい。これからも続けていきたい」と話していました。